杉並区立
浜田山小学校

はまだやま

学校だより　第543号
令和２年度　１０月号

校　長　　伊勢　明子
副校長　　森賀　慎一

「よい授業」って何だろう？

副 校 長　森賀 慎一

「よい授業」と言われて、みなさんはどんな授業をイメージされるでしょうか…。きっとご自分が小学生時代に受けてきた授業を思い浮かべる方もいれば、これからの時代を見据え、〇〇な授業が行われるべきだと考える方もいらっしゃるかもしれません。確かなのはよい授業の形は１つではないということです。

現在、浜田山小学校の先生方も、このことを考えながら授業づくりに取り組んでいます。２学期から、先生方一人一人が「自分の考えるよい授業」を提案し、全学級・専科で目指す授業を学校内で公開し、みんなで共有したり学び合ったりしています。この紙面をお借りして、いくつか紹介したいと思います。

中学年のある学級では、「知らず知らずのうちに子どもが前のめりになる授業」というのをよい授業として提案していました。その社会科の授業では、子どもを引き付けるために善福寺川周辺の写真を用意していて、それらの写真や資料を観た子どもたちは気付いたことから学習課題を作っていました。夢中になって発言し合う子どもたちの姿が印象的でした。

高学年のある学級では、「自分たちで立てた課題を自ら探究していく、児童が主体的に学ぶ授業」をよい授業として提案していました。その国語科の授業では、先生と子どもたちとのやり取りから「言葉に着目する」ということが挙げられ、考えるためのヒントが共有されていました。

そしてその後、子どもたちは個人で課題に取り組む時間に入りました。一見すると、自由なおしゃべりタイムかと思われるのですが、話していることをよく聞いてみると、「クラムボンって…」「イサドって何？」等、学習内容に関わる話が延々と続いていました。約３０分間、誰一人集中を欠くことなく自らの課題を探究する子どもたちの姿が印象的でした。

音楽科の時間では「取り組む活動に必要感が伴う授業」をよい授業として提案していました。その授業では、マイクスタンドをピアノに設置し、伴奏をしながらマイクで指導し、スクリーンにはイメージする曲想の言葉が映し出され、録音機器があり、子どもたちは一人一台のタブレット PC を開いていました。ICT 機器をふんだんに活用した授業で、子どもたちは録音された自分たちの歌声を聴くことで、歌声に変化が生まれ、それを客観的に把握できていました。課題を明確にすることが、必要感をもたせることにつながることが分かった授業でした。

このように、浜田山小の先生方は、「よい授業」を自分で考え、そこに迫る手だてを考え、子どもたちのための授業づくりに真摯に取り組んでいます。子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、まずは教師がその手本を見せようと試行錯誤しています。

私たち大人にできることは、まだまだありそうです。ご家庭でもぜひ「よい授業って…」話題にしてくださると嬉しいです。

―　１０月の生活目標　―　【あいさつ名人になろう】

２学期が始まり、約１ヶ月が過ぎました。さわやかな秋風が吹き、校庭では、体育学習発表会に向けて各学年で練習に励む姿も見られ始めました。暑さが和らぎ、充実した生活や学習を送るにはとてもよい季節を迎えました。この季節に、子どもたちが一回り大きな成長ができるように、教職員全員で支援していきます。

今月の目標は、「あいさつ名人になろう」です。今年度初めてのあいさつに関する目標なので、低学年はまずは元気なあいさつをすること、中学年は進んであいさつをすること、そして高学年はいろいろな人たちにもあいさつをすること。を目標に声かけを行っていきます。保護者や地域の皆様も、本校を訪れた際には、子どもたちにあいさつを返していただき、あいさつを交わすことの気持ちよさを子どもたちに実感させていただければ幸いです。

学校、家庭、地域が連携し、あいさつの溢れる浜小を目指していきたいと思います。